

## 生命機能研究科アドミッション・ポリシー

### 【生命機能研究科の教育理念】

20世紀の生命科学は、遺伝子工学、分子細胞生物学、生物物理学、ゲノム科学などの急速な進歩を基礎にして、遺伝子やタンパク質など生命体を構成する要素（生命素子）の物質的基盤について目覚ましい理解をもたらしてきました。しかし、生命は、単なる物質の集合によって成り立っているのではなく、それら生命素子が動的かつ有機的に統合されて成り立つシステムとして理解すべきであると考えられます。

生命機能研究科は、生命素子がどのように統合されて生命システムが構築されるのかを明らかにすることが21世紀の生命科学に求められている大きな課題であると捉え、これからの生命科学の中心として発展すべき新しい学問領域を創世することを目標としています。そのため医学系、工学系、理学系の学問を融合した新しい研究体系を構築し、5年一貫制博士課程の教育を通じて、大学や研究機関の最先端研究現場で高度な専門家や次世代の最先端研究を担う研究者として活躍する人材、そして社会のより広い分野でリーダーとして活躍する人材を育成します。

### 【求める人材像】

生命機能研究科では、上記の教育理念に共感し、生命科学、医学、理工学における最先端の実験研究と理論研究を融合し、新たな学問分野を開拓しようという高い意欲を持つ人を積極的に受け入れたいと考えています。出身学部や経歴にこだわらず、博士課程で学び、考え、高い目標を見つけ、将来さまざまな分野でリーダーとなる強い意志と広い視野を持つ人材を歓迎します。

### 【入学者選抜の基本方針】

したがって、入学者の選抜では、網羅的な知識の量ではなく、研究者としての資質を問いません。興味のある特定の分野について基礎知識や専門知識等を正しく理解していることに加えて、研究対象への拘り、想像力、判断力、論理的に考え説明する力など、研究遂行に必要な各種の能力を評価します。また、生命科学研究は英語なくしては行えませんので、基礎的な英語力を要求します。

### 【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】

入学者選抜は、口述試験及び英語能力評価により行います。

- ・ 口述試験は、志願者の卒業研究、若しくは生命機能研究科で取り組みたい分野の研究についてのプレゼンテーションと試問を行います。それにより、基礎知識や専門知識等の理解度、研究対象への拘りや想像力、判断力、論理的に考え説明する力など、研究者としての資質を有しているかを評価します。

- ・ 英語能力は、TOEFL、TOEIC 又は IELTS のスコアを利用し評価の対象とします。スコアが基準点に満たない場合は、出願が認められません。